

を入れたいとのことだった。建設業界にも正直未練がある。でも私が仕事をすることで目指していた、いきいきと働く人が増える職場環境は、どこでもできると思ったら、それが静甲でもいいんだと人社を決めました。

現状に疑問を抱かせて主体的に動く人材を育てる

静甲(株)は、包装機械や冷間鍛造部品といった製造部門、FAシステム、空調設備などを扱う商事部門があり、さらにグループ全体では自動車販売や人材派遣など、多彩な事業を営む。異業種から転職した鈴木氏は、子会社の取締役を歴任し、さまざまな部署で現状を把握する。慣習的にやっていることは、割り切つてやめてみたらどうか。それはビジネスとして必要なのか、業界として普通なのか。もつと効率化できる方法はないか。こうした問いを現場に投げ続けた。10年、20年先を見据えた真の意味で働きやすい職場環境をつくるために、課題をあぶり出し、社員の意識改革に努めたのだ。その反応が一時ネガティブに振れたとしても『それならこうすれば』と主体的に動き始める人が出てくる。そこそが、私が目指している、いきいきと働く人が増える環境への第一歩。小さな変化でも、いずれは会社全体が変わっていく。中には会社を去る人もいるで

しょう。でも、そうした流動性も時には必要でし、その人にとつても嫌な思いをしながら働くよりも、転職するなり起業をするなりして、本当にやりたい仕事でいきいきと働いてほしいんです。

これからもその考えは変わらない。種をまくのが好きというより、また種が芽を出すまで、水をやり、肥料を与えるのが好きなのだ。いい芽が出れば後は伸びるだけ。そういう状況をとくさんつくりたい。単純な働き方改革でなく、もつと本質的な部分で働く人の意識を変えていくのです。もちろん、残業を推奨するわけでもないし、私が建設業界に入った頃のように夜中までがむしやりに働けということでもない。楽しい仕事だったら、時間を惜しんで没頭する。そういう意識で仕事できるのが理想です。

自分が去っても成長していく 持続可能な組織をつくる

2024年に創業85周年を迎えた静甲(株)。前期には過去最高の連結売り上げを記録し、鈴木氏という新たな社長を迎え、さらに飛躍し続ける100年企業を目指す。これまでも、時代に合わせた顧客の要請に柔軟に対応しながら新事業を手がけ、役目を終えた事業は手放してきたと、鈴木氏。いい意味で固執しすぎない自

社の体質を維持しながら、社内でも由闊達な議論を交わし、時代の求めに応えた事業展開をしていくと語る。『今弊社が手がけているビジネスは、省エネ、省人化、省資源化など、『省』に貢献するものが多い。環境問題に対応する、そして少子化で労働人口が減るこれからの日本に、まさに必要なこと。これらはしっかりと伸ばしていきたい』。

一方で、同社では4月にマーケットアウト思考の市場開発事業部を立ち上げた。自分たちの視野を広げ、グループ企業含めて全社横断的に既存顧客にさらなる価値提供をする営業展開を行う。さらに、6月には初の海外拠点としてジャカルタに駐在員事務所を開所。取引先の日本企業現地法人のアフターメンテナンスと、市場リサーチ、開拓を行う。『今後100周年に向けて持続的に成長をしていくためには、ある程度のリスクテイクは必要でしょう。直近の数字は悪くても、ジャンプする直前のいいところまで来ているんだとポジティブに捉えて、裏ではリスクコントロールをする。新しいビジネスを始めるにしろ、既存のビジネスを広げるにしろ、リスクをきちんと見積もった上で、どこまで攻められるかがポイントです。私個人は『チャレンジ』という言葉はあまり好きではない。なににチャレンジしているのかその言葉の裏に実態が無ければ空虚に響いてしまうから。社内でも私自身が直接影響を与えられる人は限られますが、自分が関わっている間だけ良ければ、あとはどうでもいいという考えはすごく嫌い。目先のことよりも、私が去った後も成長し続ける状態にするために、今やれることは何かを常に考えています。その結果で10年後、20年後にいきいきと働く社員が増え続ける組織に変わっていれば嬉しいですね』。



■略歴
鈴木 孝典 (すずき たかのり)
1973年、静岡県清水区生まれ。日本大学理工学部海洋建築工学科卒業、日本大学大学院理工学研究科海洋建築工学専攻修了。1998年4月、大成建設(株)入社、19年間勤める。2016年ビジネスブレークスルー大学大学院MBAコース入学、19年中退。2017年5月より静甲グループ会社の取締役を歴任し、19年6月静甲(株)取締役就任。2020年5月、静岡スバル自動車(株)代表取締役社長。2024年4月、代表取締役会長。2024年6月26日より現職。

創業85周年を迎えた静甲(株)。6月26日、新たな社長に鈴木孝典氏が就任した。「現状に固執せずさらに飛躍する時」と語る鈴木氏。建設業界で身に付けたビジネススキルと100周年以降も見据えたビジョンでグループ全体を牽引し、適切なリスクテイクで持続的に成長していく企業を目指す。

句／な／人

鈴木孝典

静甲株式会社 代表取締役 取締役社長

いきいきとした人が増える環境づくりと 時代に求められるビジネス展開で 持続可能な成長を続ける100年企業に

自分の道と決めた建設業界から家業への「転職」を図る

鈴木氏は、大学院修了後大手ゼネコンに就職し、建設業界で現場監督としてのキャリアを積んできた。自分の担当案件以外にも複数の現場をサポートするといった勤務が続くことも多かったが、会社を背負って仕事をしているという実感があがり、それは大きなやりがいだった。多忙ながら充実した日々を過ごすうち、現場を「いきいきとした人が増える環境をつくる」ことこそ、自身のやりがいにつながっていると気づく。現場にはさまざまな職種、雇用形態の人たちが集まっています。中には、技術や意欲がありながら、それを認められていない人も多かった。そうした人を適正に評価することで、笑顔が生まれ、主体的に動き始め、現場の効率も上がる。それを目の当たりにできるのが楽しかったですね。

祖父が創業した静甲(株)は、「好きな道をいく」と大学に進学した時点で、跡を継ぐことはないと考えていたため、そのまま建設業界に骨を埋めるつもりでいた。転職が訪れたのは7年前。戻つてこいというよりも、ヘッドハンティングのような感じで入社打診が来ました。話を聞くと、会社の業績は順調でしたが、中長期的な視点での変革のために、社内新しい風